

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.18 2007年2月号

最近、「教育」が大変注目されていますよね。教育基本法が昨年12月に改正（改悪？）されましたし、安倍首相直轄の教育再生会議には居酒屋「和民」の渡邊社長や、ヤンキー先生で有名な義家弘介さんが委員として参加し話題となっています。私たちには子供がいませんので、学校で今何が起きているかを身近に感じる機会がほとんどないのですが、ニュースなどでは毎日のようにこの話題が取り上げられていますし、子供を持つ友人の話を聞くと、学校が荒れているということは感じます。

これは友人から聞いた、小学校で実際に起きていることだそうです。授業中、座っていられず歩きまわっている生徒がいるので、それを先生が注意すると、その生徒が先生に向かって「教育委員会に言いつけて先生を辞めさせてやる」と脅すそうです。また、朝登校してこない生徒がいるので、先生が心配して自宅に電話すると、生徒の親が「昨日は夜遅くまで起きてたからしょうがないでしょ！今日は休ませます！」と逆に先生をしかりつけることがあるそうです。生徒への体罰などがあろうものなら大問題になることは今や常識ですし、小学校で傷害事件や殺人事件まで起こるわけですから、何があっても不思議ではありません。でも、このようなことが日常的に起きていることに私はびっくりしました。小学生のお子さんを持つ方なら、きっと、まだまだ驚くようなエピソードをたくさんご存知なのでしょう。

私自身が小学生のころは「教育委員会」なんて言葉も知りませんでしたし、先生に逆らう生徒なんていませんでした。今でも覚えています。小学校2年生のときの担任の先生はかたいゴムの棒を持って、何かといっては生徒を「ぼこぼこ」たたいていました（そこで、先生はその棒のことを「ぼこ」と呼んでいました）。私も何度もたたかれましたし、悪いのは生徒の方ですから、それで文句を言う親もいませんでした。もちろん、問題のある先生がいることも否定はしませんが、そうやって育ってきた私たちの世代が先生を脅す小学生の親となり、学校に文句を言っていることが不思議でなりません。

あるテレビで、「子供はまだ『人間』になってないんだから、悪いということをつたいて教えるのは当たり前だ」と、ある出演者が言っていました。私はなるほどと思いましたが、特に小学生ぐらいのお子さんを持つみなさんは、どう思いますか？

